

# 大学院生シンポジウム GS02

## エピジェネティクス研究最前線

～基礎から創薬応用まで多角的に捉える～

The front line of epigenetics research ~ Multidisciplinary grasp from basic research to drug discovery ~

則次 恒太<sup>1,2,3</sup>, 清水 聡史<sup>4</sup>

<sup>1</sup>東大院農, <sup>2</sup>東京薬大生命, <sup>3</sup>理研, <sup>4</sup>静岡県大院薬

2003年にヒトゲノム解析が完了したことで、遺伝情報と疾患の関係が全て解明されると考えられた。しかし解明できたのは一部であり、遺伝情報との関連が不明な部分が多く存在する。そこで近年、DNAの塩基配列の変化によらない遺伝子発現制御機構であるエピジェネティクスが盛んに研究されている。エピジェネティクスは多くの疾患の原因に関わると考えられており、現在までにがんをはじめとする様々な疾患との関係が報告されている。しかしその一方でエピジェネティクスを標的とした創薬研究は発展途上にある。これはエピジェネティクスに関する解析ツールが不十分で、その制御機構が十分に解明できていないことが一因となっていると考えられる。そこで本シンポジウムでは、エピジェネティクス研究の基礎研究から創薬応用まで幅広い研究を紹介することで最先端の知見を共有し、エピジェネティクスをターゲットとした創薬研究の活性化を図る。また、異なる分野の若手研究者が討論をすることで、自身の分野からは考えにくい新たな知見や考察力、着想を得ることが期待される。本シンポジウムを通してエピジェネティクスを多角的に捉え、疾患の根本的な治療研究への新たな戦略を練る糸口となることを期待する。